

秋冬ねぎにおける総合的病害虫・雑草管理 (IPM) による生産技術の展示

要約

マルチ大麦等の天敵温存植物の植栽や、天敵に影響が小さい農薬の併用により、土着天敵が温存され、アザミウマ類等の害虫の増加が抑制された。

○ 展示のねらい

秋冬ねぎにおいて土着天敵を活用した病害虫防除体系をモデル的に展示することにより、その普及定着を促進する。展示内容は以下のとおり。

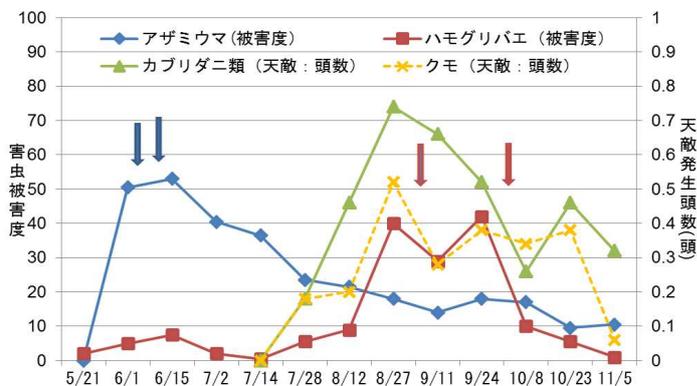
(1) 天敵温存植物の植栽

- ①大麦をねぎの畝間に播種する。
- ②ハゼリソウをほ場の外周に播種する。

(2) 農薬の使用制限

- ①非選択性殺虫剤は原則として使用しない。
- ②定植時のネオニコチノイド系の粒剤又は灌注剤は使用し、その後は害虫の発生が許容できない場合に、天敵に影響の小さい選択性殺虫剤を使用する。
- ④天敵温存植物にはなるべく殺虫剤が飛散しないように配慮する。
- ⑤ポリオキシシンなど天敵への影響が大きい一部の殺菌剤は使用しない。

○ 主な成果



ねぎ害虫の被害度および天敵の1葉当たりの発生頭数
(矢印は各対象害虫への殺虫剤の使用)

ねぎ畝間のマルチ大麦

(1) ねぎ畝間のマルチ大麦にアザミウマ類の天敵であるカブリダニ類が発生し、ねぎでのアザミウマ類の増加を抑制した。天敵に影響が小さい農薬の併用により、ネギハモグリバエ等の被害を抑えた。

(2) 殺虫剤の使用回数は6回で、昨年と同回数だった。収量は昨年と同等か多かった。

○ 今後の方向性

大麦の播種時期や方法を、ねぎの栽培体系と併せて考える必要がある。大麦によるマルチは夏場の地温低下効果や、雑草抑制効果もあるため、栽培期間を長く取り出荷時期が遅い作型での導入を提案していきたい。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315